

藝術研究所 研究調査報告書

13

2014

大阪芸術大学藝術研究所

ご 挨拶

大阪芸術大学藝術研究所

所長 喜多 俊之

『研究成果報告』第13号をお届けいたします。

この報告書は、平成25年度の公募の中より藝術研究所運営委員会が認めた補助費による研究調査の成果をまとめたものです。

本学に於ける研究調査活動がさらに活性化することを願い、来年度以降も研究調査補助の活動を継続してまいります。総合芸術大学の特性を活かし、領域を越えた共同研究調査は大いに歓迎いたします。

また、この報告書に対する批評・感想など当研究所宛にお送りください。

藝術研究所研究調査完結研究課題一覧表

(平成25年度)

研究ディレクター	研 究 課 題	頁数
若 生 謙 二 (環境デザイン)	1400年を迎える竹内街道の歴史的環境を再生するための 芸術表現に関する研究	4

※各氏名の肩書きは、研究調査補助費申請書申請時の役職で掲載しています。

1400年を迎える竹内街道の歴史的環境を再生するための 芸術表現に関する研究

研究年度・期間：平成 25 年度

研究ディレクター：若生 謙二
(環境デザイン学科教授)

共同研究者：里中満智子
(キャラクター造形学科長)

織作 峰子
(写真学科長)

大森 一樹
(映像学科長)

山形 政昭
(建築学科教授)

伊藤 隆
(工芸学科長)

宮本 知
(デザイン学科教授)

下休場千秋
(環境デザイン学科教授)

福原 成雄
(環境デザイン学科教授)

松久 喜樹
(環境デザイン学科教授)

1. はじめに

わが国最古の官道である竹内街道は2013年に敷設1400年を迎え、沿道の12の自治体はこれを機に竹内街道への意識の喚起を探っている。この歴史的エポックの本質は、南大阪周辺に残る歴史遺産を核にして、竹内街道の歴史的環境の再生を図ることである。

歴史的環境の再生についての取り組みでは、それを実現してゆくための道筋についての議論が必要になる。しかし、それだけではなく、実際にこうした取り組みを実現してゆくためには、住民がそのことを認識しているか、あるいはいかに取り組もうとしているのかという意識が根幹の課題となる。したがって、実現のためには、住民の意識にいかに関わりかけてゆくのが大きな課題である。

芸術は人々の心に働きかけるメディアである。本研究は、竹内街道とその周辺の歴史遺産に着目し、この地にある総合芸術大学として、本学が有する多様な芸術領域から芸術という方法を用いて歴史環境を再生するための意識を喚起する方策を探り、歴史的環境を再生するための道筋を探ろうという意図で行われた。そして、100年後の敷設1500年目に向けて、歴史的環境を実際に再生するための道筋をあらわし、芸術表現というメディアで住民の意識に関わりかける方策を探ることを目的とした。

2. 研究の展開

本研究は歴史的環境を再生する道筋をあらわし、芸術表現で住民の意識に関わりかける方策を探るという実践的研究である。そのため、研究は次のような内容で行われた。

- 1) 竹内街道周辺の歴史的環境を再生するための方策提言
- 2) 歴史的環境の再生にむけての芸術表現の方策の検討と作品制作・作品展の開催
- 3) 2013年11月17日に開催された竹内街道サミットでの作品発表等である。

1) 竹内街道周辺の歴史的環境を再生するための方策提言

この方策提言では、環境デザイン学科教員の若生謙二、下休場千秋、福原成雄、松久喜樹教授らから「古代の道からまちづくり 竹内街道・横大路(大道) 歴史的環境再生 広域条例にむけての提言」と題する以下のような提言がなされ、歴史環境再生ベルト地帯の地図が作成された。

敷設1400年を迎えた竹内街道・横大路(大道)の街道周辺の歴史的環境の再生をいかに実現するか。都市化の進行がみられるものの人口減少社会を迎え、建蔽地の再編成が課題となるため、100年後の1500年をめざせば実現は視野に入る。街道を通る12の自治体は歴史空間の創造に向けての共同宣言を行ったが、これらの自治体が共同して南大阪から飛鳥への街道全体の歴史再生にとりくむ歴史環境再生のための広域条例の制定とその案を提言した。

広域条例では人が訪れることで潤う攻めと景観保全というまもりの両面の姿勢をもとに、街道沿道の両側300mの「歴史環境促進区域」、歴史遺産や景観資源が多く存在し、積極的に歴史的環境の再生を図る「歴史環境形成区域」を設定し、三つの世界遺産候補地と共に歴史環境再生のベルト地帯構想を提案した。



広域条例による竹内街道・横大路(大道)歴史環境再生にむけてのベルト地帯構想図

2) 歴史的環境の再生にむけての芸術表現の方策の検討と作品制作および作品展の開催

このとりくみでは、前述した趣旨のもとに全学を対象とした作品募集をよびかけたところ、80点の作品の応募があった。応募作品の内訳は美術学科、工芸学科、文芸学科、写真学科、デザイン学科、音楽学科、初等芸術教育学科、環境デザイン学科の教員、院生、学生から幅広い作品が提出された。

美術学科からは、竹原教授を筆頭に竹内街道周辺の歴史的環境や家屋を描いた12点の日本画が描かれ、油画からの作品が出展された。工芸学科からは、井関教授による古代からこの地で織りつがれてきた河内茜、河内紫とよばれる織物が出展され、12名の学生からはタペストリーが出展された。陶芸の院生からは太子町にみられた「角屋の馬」を陶芸で表現した作品が、金属工芸の院生からは装身具が、また、ガラス工芸の学生からは勾玉が出展されるなど、歴史環境に根ざした作品群がみられた。また、写真学科からは、織作学科長の指導をうけた学生らが、竹内街道沿道で活躍する人々を撮影した作品が出され、教員と学生が共同で街道周辺を撮影した作品群も提出された。文芸学科からは長谷川学科長の指導をうけた学生らが街道の風景を俳句で表現し、また阪井教授の指導をうけた学生らが街道を文芸で表現するとともに、写真学科とのコラボレーションも行われ、永坂教授の風景写真と文芸の共同表現も行われた。高田雄吉客員教授からは、ローマと飛鳥をむすぶグラフィック作品、市川衛准教授からは叡福寺と太子御廟を6台のiPadで表現する映像作品、奥講師からは当地で採取されるサヌカイトを叩くことで発する音に反応して変化する万華鏡という音風景の作品、デザイン学科の学生からは会場で作画をするというパフォーマンス、環境デザイン学科の学生からは竹内街道の歴史環境再生にむけての計画案が提案された。



河内茜と紫

大阪芸術大学	<i>Osaka University of Arts</i>
井関 和代 教授	<i>Professor Iseki Kazuyo</i>
嶋坂 恵 副手	<i>Research Assistant Shimasaka Megumi</i>
平岡 朋子 副手	<i>Research Assistant Hiraoka Tomoko</i>
工芸学科	<i>Crafts Department</i>



太陽の揺り籠

三枝 翔子

夏夏の常陸寺は、陽炎に包まれて、まるで此の世のものではないように思えた。空はくもでも青く、鐘階のような薄雲がゆっくりと流れている。微い風が吹き、青く色づくような柔しい夏の真昼だった。

境内の鮮やかな緑に住んでる蝉たちの鳴き声が、鼓動を頼みはと頼れた。地面に降りける白光に、目がちかちかとする。藤原聖子は汗ばんだ手で、その手の中にあるものをぎゅっと握りしめた。数きりめられた砂利石が少く度々草履に侵入する。しかしそんなことは感末だ。足の端みなどよりも、胸の方が比べようもないほど痛かった。左右を蹴めしめる藤原の王権に守られた東大門をくぐり抜け、歴史の重みを感じる社殿を目前に見ながら、立ち止まることなく歩いていく。古い石燈籠が背後から太陽に照らされ、地面に影を伸ばす音がした。陰に踏み入る。火照つた夜露を強がり止めた。

首飾から光る珠が滑り落ちていく。それは白ゆかりのひたひたのシャツに映り込まれていった。ここに「は」。本堂に向かう石階に、くすん色の作務衣を着た常陸の住職が、箆を持って出迎えた。手拭いを首からかけた住職は、聖子が常陸寺に道うちに、すっかり顔見知りになっていた。いつも通り柔らかな笑みを浮かべながら挨拶をしてくれる。「……こんにちは」。聖子も「さおいて挨拶を返した。小さく頭を下げると、こめかみに汗が伝った。

「又々、本堂に、まるで地獄のようですね」

「あ、内が揺蕩のよなんなん、珍しい物言いをされる方ですね」

「ごめんなさい、でも、本堂にさう思っただけです」

不意にだんごを掴むから思ったが、住職は困ったように笑っただけだった。

「寂園の池に陣置が咲きましたよ。蓮の花も今朝見たら花が開いていました。時間があつたらぜひ見に行ってください。少しでも暑さが和らぐといいですね」

「ありがとございます。……こんなに暑くても花は咲くんですね」

蓮の鳴き声が止んだ。風の吹く音も無い静寂な空間に、その声はやけに大きく聞えた。

薄紫色の霞を抜く。

可憐に揺れる白色の山吹台。

窓取りの瓦を帯を思わせる。細やかな花弁が桜生を彩る紅色の白日紅。

水面を渡る深緑の葉に、鮮やかな対比の白い花弁と、その中央に輝く黄色の花びらが散らばる。乙女が頬を染めたように、愛らしい薄紅色の顔現。

小振りな白色の花が涼やかに咲き誇る砂羅双葉。

美しい花々は、解えられた葎葉の緑と共に、境内に華やかさを添えている。

「生命の不思議ですね。暑くなければ生きていけない花もあれば、寒くなければ生きえない花もある。限られた季節を精一杯生きる。だからこそ美しいのでしょうか」

太陽の揺り籠

大阪芸術大学
三枝 翔子
文芸学科

Osaka University of Arts
Mitsuueda Syoko
Literary Arts Department

作品意図

当麻寺、中将姫伝説。大津の息子の歴史、文化を題材にした現代ものの短編小説。永坂(写)とコラボ。

二上山遠景

大阪芸術大学
永坂 嘉光 教授
写真学科

Osaka University of Arts
Professor Nagasaka Yoshimitsu
Photography Department

作品意図

その昔二上山、金剛山、葛城山、等の山々には多くの修行者が山に籠り行をしたのですが、二上山は大阪芸大から望んでも一番近くの特徴ある山だ。ラクダの背の様に二つの山があり、頂きを形成している。また遠くからでもこの2つのコブを持っている山は良く確認出来る。私は遠く吉野山が望む事にした。雨上がりの日であったが、遠くに二上山が望める素晴らしい絶景が広がった。美しい一瞬であった。遠くから望める二上山を撮影出来た。

写真学科と文芸学科とのコラボレーションによる作品例



緑のみち

大阪芸術大学
若林 由
川嶋 紫方
芦澤 香文
村本 翔子

Osaka University of Arts
Wakabayashi Yuu
Kawashima Shiho
Ashizawa Kafumi
Muramoto Shoko

写真学科
デザイン学科

Photography Department
Design Department

作品意図

推古天皇が街道を設けられて1400年。竹内街道は文化や技術を運ぶ道、星の数ほどの人が行き来し、交流する出会いの道として現在までつながってきました。私達はこの最古の街道を通して、竹内街道沿いで日々活躍されている方々に光を当て、写真表現から「人と人」「人とみち」というつながりを感じて頂きたいと思えます。竹内街道・横大路(大道)の魅力を発信していこうと作品を制作致しました。

写真学科とデザイン学科学生による作品例

学内出品者

井 関 和 代	工芸学科	教授		8 頁
嶋 坂 恵	工芸学科	副手	河内茜と紫	
平 岡 朋 子	工芸学科	副手		
柏 木 理 栄	工芸学科	学生	道	9
宮 脇 静 良	工芸学科	学生	きらきらひかる	10
治久丸 由 香	工芸学科	学生	やすらぎ	11
北 村 日 乃	工芸学科	学生	木	12
桐 谷 凪	工芸学科	学生	夢見るタツノオトシゴ	13
松 田 千 尋	工芸学科	学生	山	14
藤 原 怜 子	工芸学科	学生	シルクロードから	15
三 坂 美 弥	工芸学科	学生	生命	16
伊 藤 友 希	工芸学科	学生	華	17
古 川 文 音	工芸学科	学生	秋の道	18
奈須田 咲	工芸学科	学生	交わり	19
安 岡 あかね	工芸学科	学生	憩いのひととき	20
河 合 芙 幸	工芸学科	学生	繋がる。	21
井 阪 文 紀	大学院芸術研究科	院生	my son	22
齋 藤 緑	大学院芸術研究科	院生	夏	23
奥 田 基 之	写真学科	専任講師	竹内街道遠望	24
近 江 志 織	大学院芸術研究科	院生	傍ら	25
西 村 彩	大学院芸術研究科	院生	scope	26
中 前 光 恵	大学院芸術研究科	院生	ながれる	27
岡 本 博 紀	大学院芸術研究科	院生	油彩・キャンバス・木枠	28
竹 原 城 文	美術学科	教授	望藤原京	29
菅 家 みづき	美術学科	学生	一角に佇む	30
前 田 萌	美術学科	学生	百日	31
東 純 子	美術学科	学生	古家	32
金 原 千 尋	美術学科	学生	BEYOND	33
小 池 美 貴	美術学科	学生	亀礎	34
鈴 木 花 奈	美術学科	学生	歩む道	35
中 野 雄 基	美術学科	学生	秋の竹内街道	36
菊 地 涼 那	美術学科	学生	生活と水	37
竹 内 茉 利	美術学科	学生	寄り道	38
佐 藤 史 門	文芸学科	学生	歩き方を忘れて	39
糸 井 桃 子	文芸学科	学生	きょうのしるべに	40
武 田 悠	文芸学科	学生	蒼き古道	41
塚 田 裕 貴	文芸学科	学生	一行の文	42
原 田 あ や	文芸学科	学生	緩やかな勾配では	43
荒 川 達 彦	文芸学科	学生	その道	44
磯 野 奈津子	文芸学科	学生	青い影	45
浦 郷 成 美	文芸学科	学生	夕日の中で	46
田 尻 紗也華	文芸学科	学生	旅人の足跡	47
中 尾 修 吾	文芸学科	学生	蛭螭と空蟬	48
菱 田 和 子	文芸学科	学生	白鳥の終着点	49
今 永 和 宏	文芸学科	学生	白鳥の空	50
松 本 遼	文芸学科	学生	歴史の息づかい	51
石 川 葵	文芸学科	学生	知識が力になる	52
豊 田 啓 介	文芸学科	学生	歯がゆさと竹内街道	53
仲 谷 彩	文芸学科	学生	羽曳野の島	54
三 枝 翔 子	文芸学科	学生	太陽の揺り籠	55
永 坂 嘉 光	写真学科	教授	二上山遠景	
坂 本 望	文芸学科	学生	パノラマ	56

橋原海	文芸学科	学生	竹内街道の種	57頁
石黒悠	写真学科	学生	叡福寺	
若林由	写真学科	学生		58
川嶋紫方	写真学科	学生	縁のみち	
芦澤香文	写真学科	学生		
村本翔子	デザイン学科	学生		
立花常雄	写真学科	非常勤講師	王陵の谷 — 山田高塚古墳 —	59
平松佑介	写真学科	非常勤講師	風の片鱗	60
太田順一	写真学科	非常勤講師	大和	61
松島可歩	写真学科	学生	街柄	62
福丸真美	写真学科	学生	PLASTIC	63
只野寛享	写真学科	学生	めぐる道	64
館かほる	写真学科	学生	峠	65
松谷健太郎	写真学科	学生	今昔叡福寺	66
高木恵	写真学科	学生	古市の道より	67
北浦瑞季	写真学科	学生	上ノ太子	68
久世直幸	美術学科	非常勤講師	茜空 — 甘檉の丘から —	69
泉川秀文	通信教育部 音楽学科	非常勤講師	導き観音祈願会・音楽法要	70
奥忍	初等芸術教育学科	非常勤講師	竹内街道音風景	71
市川衛	音楽学科	准教授	叡福寺と太子御廟	72
津塩桂生	大学院芸術研究科	院生	Colony ver.animal	73
松村知春	工芸学科	学生	すいこむ	74
橋本啓	大学院芸術研究科	院生	夢うつる	75
本郷瞳	工芸学科	学生	勾玉	76
高田雄吉	デザイン学科	客員教授	ROME — ASUKA	77
浜崎翔	デザイン学科	学生		78
中村俊貴	舞台芸術学科	学生	道	
中尾舜	デザイン学科	学生		
宮本知	デザイン学科	教授	燈火を繋ぐ	79
渡辺貴大	環境デザイン学科	学生		80
上田知樹	環境デザイン学科	学生		
真鍋徳啓	環境デザイン学科	学生	竹内街道 — 自転車で巡る 1400年の旅 —	
谷村彩美	環境デザイン学科	学生		
東田稜平	環境デザイン学科	学生		
古川舜	環境デザイン学科	学生		
森山将士	環境デザイン学科	学生		
井村恭輔	環境デザイン学科	学生		81
高尾肇	環境デザイン学科	学生	太子町歴史博物館構想	
安井一喜	環境デザイン学科	学生		
赤木果菜子	環境デザイン学科	学生		
木下大喜	環境デザイン学科	学生		
池崎薫汰	環境デザイン学科	学生		
鮫内佑基	環境デザイン学科	学生		82
土出佳苗	環境デザイン学科	学生	流れ…歩く… 竹内街道 蘇る千四百年の景観	
秋田真輝	環境デザイン学科	学生		
石井智規	環境デザイン学科	学生		
由良茜	環境デザイン学科	学生		
高木恵理	環境デザイン学科	学生		太子まち大学 — 歴史文化学部 —
若生謙二	環境デザイン学科	教授		84
下休場千秋	環境デザイン学科	教授	古代の道からまちづくり	85
福原成雄	環境デザイン学科	教授	竹内街道・横大路(大道)	
松久喜樹	環境デザイン学科	教授	歴史的環境再生 広域条例こむけての提言	

3)2013年11月17日に開催された竹内街道サミットでの作品発表

「芸術と歴史街道」展

上述の作品群は、11月17日に竹内街道サミットが開催されるのにあわせて、11月16日から17日にかけて、NHK大阪放送局1階アトリウムにおいて「芸術と歴史街道」展と題して展示され、多くの市民に鑑賞された。さらに11月18日から11月26日にかけては、なんばパークス7階パークスホールにおいて展示され、写真学科有野永霧元教授による作品解説も行われた。

また、11月17日にはNHK大阪放送局1階アトリウムにおいて環境デザイン学科学生らによる竹内街道の歴史環境再生のための提案がパワーポイントで発表され、隣接する大阪歴史博物館4階講堂では環境デザイン学科教員、若生、下休場、福原、松久各教授らによる「古代の道からまちづくり 竹内街道・横大路(大道) 歴史的環境再生 広域条例にむけての提言」の発表が行われた。

また、竹内街道サミットでは街道沿道の自治体である大阪府、大阪市、堺市、松原市、羽曳野市、太子町、葛城市、大和高田市、橿原市、桜井市、明日香村、奈良県の12人の首長らが、100年後の1500年目に向けて、街道周辺の歴史空間の創造に向けての共同宣言を行った。宣言採択後の17時には、デザイン学科の宮本教授がデザイン・制作した聖火トーチを持ち古代衣装をまとった本学女子駅伝部の学生聖火ランナーがNHKホール前の会場に到着し、聖火台に着火した。12人の首長がこの聖火を、前に設えられた点灯台に一斉に着火すると、街道を模した12のリードに明かりが灯り、和紙・竹編等で構築された二上山を模した山にまで到達すると二上山が明るく点灯するという宮本教授の演出によるパフォーマンスが行われ、サミットは成功裏に終了した。

竹内街道・横大路(大道) 1400年祭の様子

竹内街道・横大路(大道) 1400年祭

2013年11月17日 大阪歴史博物館講堂・NHK大阪放送局1階アトリウム・難波宮跡公園・なんばパークス

大阪歴史博物館

Osaka Museum of History

日本最古の官道、竹内街道・横大路(大道)の敷設から1400年を迎えた2013年11月17日、沿道の魅力を再発掘する1400年祭が開催された。この集いでは、街道沿道の12の自治体の首長らにより100年後の1500年にむけて世界に誇れる歴史的空間の創造に取り組むことが宣言された。

12:00~

開会式

オープニング演奏

大阪芸術大学演奏学科 雅楽
大阪芸術大学演奏学科雅楽「和装」「中座」の演奏で開会式が執り行われた。



アトリウム NHK大阪放送局1階

Atrium

14:00~15:15

大阪芸術大学研究発表

環境デザイン学科 学生

大阪芸術大学
環境デザイン学科学生による竹内街道の
歴史環境再生についての研究発表。



難波宮跡公園

Naniwa Placesite Park

14:20~14:35

大阪芸術大学研究発表

環境デザイン学科
教員

大阪芸術大学

「竹内街道・横大路(大道) 歴史的環境再生
広域条例にむけての提言」発表。



14:45~15:25

パネルディスカッション

「竹内街道・横大路(大道)
1500年に向けて」

大阪芸術大学

和田 萃(京都教育大学名誉教授)、辰巳琢郎(俳優)、若生謙二(大阪芸術大学教授)、山下和弥(葛城市長)による歴史街道再生にむけてのパネルディスカッション。



2013年11月18日(月)~11月26日(火) なんばパークス(7階パークスホール)

なんばパークス

Namba Parks

9:30~19:00

大阪芸術大学作品展

芸術と歴史街道

大阪芸術大学芸術研究所共同研究の一環として、本学教員、学生による竹内街道周辺の魅力を表現する作品展「芸術と歴史街道」が開催された。



11:00~19:00 (土日/祝12:00~19:00)

大阪芸術大学作品展

芸術と歴史街道

作品展は引き続きなんばパークスにおいて開催された。

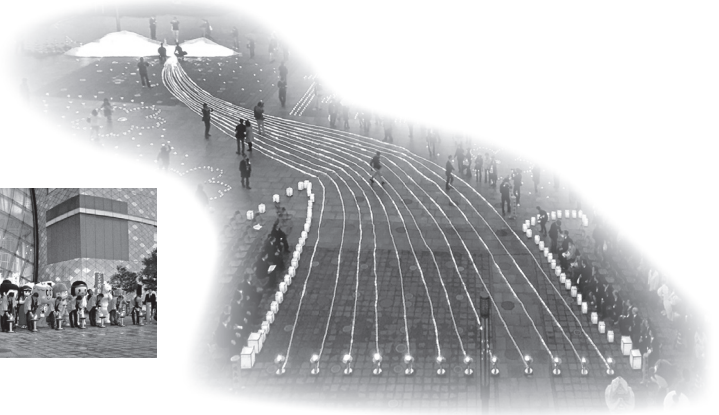


17:00~19:00

大道燈火会

沿道12自治体の首長による
大道燈火会点灯式

1400年祭のメインイベント、「大道燈火会」の燈火を大道沿道の市町村が繋ぎ、燈火トーチは大阪芸術大学女子駅伝部によって会場に運ばれた。沿道12の自治体の首長らがこの火を燈火台に点灯し、街道を表現したイルミネーションが点灯した。



大阪芸術大学作品展「芸術と歴史街道」の様子

大阪芸術大学作品展 古代の道からアートをつくる **芸術と歴史街道**

開催期間

11月16日(土)・17日(日)9時-19時

【会場】NHK大阪放送局1階アトリウム内

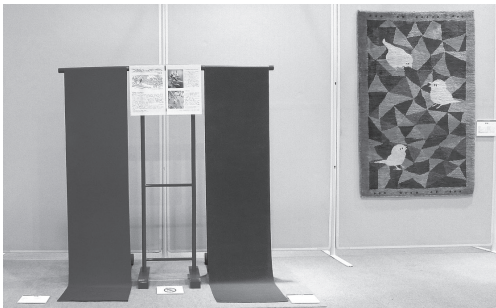
11月18日(月)-11月26日(火)11時-19時(土日・祝日12時-19時)

【会場】なんばパークス(7階パークスホール)






古代の道からまちづくり
AIST 10th Anniversary 2010-2020



2013年11月7日に大阪歴史博物館で環境デザイン学科教員が 発表したパワーポイントの内容

2013年11月17日(日)
大阪歴史博物館

古代の道からまちづくり
竹内街道・横大路(大道)
歴史的環境再生 広域条例にむけての提言



環境デザイン学科
若生 謙二
下休場 千秋
福原 成雄
松久 喜樹

竹内街道・横大路(大道) 歴史的環境再生 広域条例にむけて

- 竹内街道・横大路(大道)1400年首長サミットの意義
- 南大阪から飛鳥にいたる街道の歴史的资源とその価値を周知

↓

- 街道周辺の歴史的资源を核に、歴史的環境の再生を図る

竹内街道・横大路(大道) 歴史的環境再生 広域条例にむけて

- 街道周辺の歴史的環境の再生はいかにすれば実現できるか
- すでに都市化した地も多く、困難か?

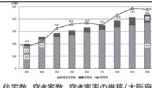
人口減少社会を迎える

建築物の余剰化 建蔽地は再編成

100年後の1500年をめざせば、可能

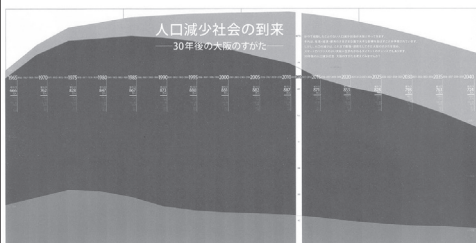
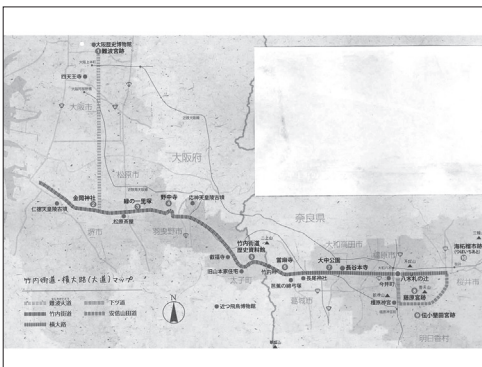
住民の認識 世論の形成

大阪府の人口減少



- 高度成長期に急増 今後減少
- 生産年齢人口の減少 高齢者の増加

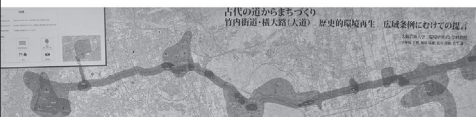
人口減少社会の到来
30年後の大阪のすがた

竹内街道・横大路(大道) 歴史的環境再生 広域条例にむけて

街道周辺12の自治体が歴史空間の創造に向けて共同宣言
をすることの意味
単一の自治体では不可能なことが可能
街道を通る自治体が共同して街道全体の歴史再生にとりくむ

竹内街道・横大路(大道) 歴史環境再生 広域条例
(景観法 景観行政団体の広域化)



竹内街道・横大路(大道) 歴史的環境再生 広域条例にむけて

歴史的環境再生 広域条例の考え方

攻めとまもり

攻め 人が訪れることで、潤う
集客のためのダイニング ショップ 外国人の宿泊


まもり 規制、遺す、保全

竹内街道・横大路(大道) 歴史的環境再生 広域条例にむけて

歴史的環境再生にむけての計画とガイドライン提言

歴史環境促進区域 街道沿道の両側各300m
歴史環境の再生を促進する区域

- 歴史環境形成区域 歴史遺産、景観資源が多く存在し、積極的に歴史環境の再生を図る区域
- 世界遺産候補地 世界遺産の候補地となっている区域




竹内街道・横大路(大道) 歴史的環境再生 広域条例にむけて

歴史環境促進区域

- 建築ガイドライン
- 色彩ガイドライン
- 景観ガイドライン
- 視点場の形成と育成

歴史環境形成区域 太子町 二上山への視点場
建築ガイドラインが求められる



竹内街道・横大路(大道) 歴史的環境再生 広域条例にむけて

歴史環境形成区域

- 無電柱化
- 歴史的まちなみでの車と人の共存
歩道・車道の追概念からの脱却
フェンスでの仕切りの克服
舗装の刷新
減速のしかけ 自転車道
- 緑陰道
- 集客ダイニング ショップ 外人用宿 古民家活用
- 建築・色彩・景観ガイドライン
- 視点場の形成と育成

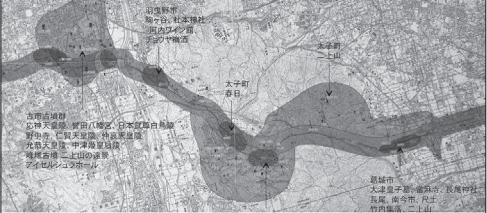
竹内街道・横大路(大道) 歴史的環境再生 広域条例にむけて



凡例

大坂市 難波区、大坂城

竹内街道・横大路(大道) 歴史的環境再生 広域条例にむけて



太子町 春日
太子町 二上山

基城市 大北皇子邸(遺跡)、長興神社、高麗、南守居、北守、竹野屋敷、二上山

太子町 歴史天童院、輪漕天童院、聖徳太子廟、用明天童院、孝徳天童院、観音寺、小野妹子の墓、料長神社、双子塚遺跡、太子温泉、田山本家住宅、竹内町歴史資料館

竹内街道・横大路(大道) 歴史的環境再生 広域条例にむけて



竹内街道・横大路(大道) 歴史的環境再生 広域条例にむけて

- 再生整備のための資金の創出
- 行政によるベースの資金
- 民間活力による資金の獲得
- 歴史街道再生管理財団の形成
歴史街道再生事業計画

個人、企業による寄付、街道再生整備事業への投資
誇りある地域の未来への投資

資金提供意欲の喚起 メディア:アニメ、映画(竹内街道物語)



難波宮跡

太子町 竹内街道



歴史環境進区域 太子町 二上山



歴史環境形成区域 太子町叡福寺周辺
無電中化の事例



歴史環境形成区域 攻めと集客のダイニング



大阪芸術大学写真学科撮影



歴史景観形成区域 羽曳野市 緑の一里塚



歴史環境形成区域 羽曳野市 駒ヶ谷



世界遺産候補のエリアと連動



竹内街道・横大路(大道) 歴史的環境再生 広域条例にむけて

- わが国初の広域条例で、街道周辺の歴史的環境の再生へ
- 古代の資源に着目した魅力のある地域へ
- 古代の道からまちづくりへ
- 12人の首長がやろうといえば広域条例は可能

4) 成果の刊行

作品展の成果は、図録として刊行され、また環境デザイン学科教員らによる「古代の道からまちづくり 竹内街道・横大路(大道) 歴史的環境再生 広域条例にむけての提言」と歴史環境再生ベルト地帯の地図は、冊子として刊行され街道沿道の上述した12の自治体に配布される予定である。

3. おわりに

作品展「芸術と歴史街道」では歴史環境を芸術で表現することの強い可能性を確認することができた。今後、このような作品展を継続することで、住民に歴史環境の価値を認識する機運を醸成することが重要になる。また、街道沿線の歴史的環境を再生する道筋として、竹内街道・横大路(大道) 歴史的環境再生、広域条例にむけての提言を行い、再生のための具体的なベルト地図を作成した。街道サミットでは首長が歴史環境としての空間の再生をめざした共同宣言を行った。しかし、それを実現するためには法的担保が必要となる。歴史的環境再生のための広域条例の制定はその具体的な提案である。その道筋を記載した冊子、作品展の図録を刊行し、周辺の自治体や住民に配布して、その機運を高めることで実現への道筋を具体化したい。